創世記第9章

２０１２年　６月５日　文責Ｓ

書記マ

前回までのあらすじ・・・

人間に愛想を尽かした神様は、大洪水により神から粛清を受けた。

洪水も終わり、自身が作った箱舟により生き残ったノアとその他家畜に対し、神はもうこんなことはしないと宣言した。

今回の流れ

神からの祝福の言葉→人間との契約を結ぶ→ノアたちが世界へ→ハムがノアの裸を見る

→カナンが呪われる

祝福と契約

Ｑ１、洪水後の状況はあるときの状況に非常に似ている。だが、微妙な相違も散見される。どういう部分が異なるのか？また、どうしてだろう？

あるとき→

五：神様が世界を作った後に人間に語っている時に似ている。４節に書かれているとことが違う

たき：すべての生き物が恐れおののくって箇所が人間と動物の関係。

け：どのタイミングで肉食いだしたのか疑問。

ツ：恐れおののく～：人間が支配者ってことを明確にしている。

①恐れおののくという点が以前と違う

S：支配すると恐れおののくとの違いは？

支配する：上からの命令で人間が支配者になる。恐れおののく：下から上を認める。

⇒洪水の後、人間に対しての多少の諦めが入っている

②肉は血を含んだまま食べてはならないという点が違う。

け：タンパク質とらないと子孫残せないから食べだした

五、T：以前から食べてたんじゃない？

S:堕落してしまったから妥協したのだと思う。&土地が枯れてきてしまうから肉を食うしかない

Ｑ２、人が血を流し流されていけないのは、人が神に類似しているからであり、生命に対する尊厳などではない。これはちょっと横柄な気がしませんか？

T:生命に対する尊厳というものが最近できた考え方で、昔は主流ではなかったのではないか

人間はすごくないと昔ほど思われなくなった（最近神様の存在を希薄）

たき：神のものであるから傷つけられるのが嫌いなのは当たり前。

マタイ22章37節：隣人を自分のように愛しなさい

ここからもわかるとおり（人間は神に似ている）隣人を愛する⇒神を愛することにつながる

山本先生：天地創造の場面では人間はベジタリアンじゃないという考えの人もいたが、

イブの堕罪により肉を食べだしたのではないかと考えている。

食育：命に感謝して食べましょう。罪深いことはしょうがない⇒大切なのは命をとることにたいして感謝。この食育に似ているがこれは恐れおののくにつながるのではないか

風評被害は自然に対する人間の責任を欠如しているのではないか？人間と自然界にあるものは共生関係だと思う。動物が恐れおののいているから、人間は動物に対して感謝すべきではないかな。

Ｑ３、なんで血を含んだまま肉を食べてはだめなの？

血というのは神様のものという認識があるから。

Ｑ４、神が人間を滅ぼすことはもうないのだろうか？

S:洪水に限定して滅ぼすことはないのであって、ソドムとゴモラ（地上の部分的）は火で滅ぼしている。

五：ここで書いているので、もうないのではないか

Ｑ５、虹ってなんだろう？どうして虹が契約の証しなの？

虹：レインボー(rainbow)：神の武器である弓を置いている。

I:晴れているときは雲がないから、（洪水を連想させる）雨の象徴として雲という文字を使っている。

雲があるとそこになにがあるかわからない⇒そこに神はいるという象徴が雲。

虹；橋を架けるイメージ（和解）　矢：雷（怒りを示すもの）。正反対にあるがセット。

ノアとその息子たち

Ｑ６、ノアはどうして農夫になったのか？(ｃｆ創世記３、１７～１９)

土が呪われているのになぜ苦労する農夫になった？

け：なぜ遊牧民になったのかな

Ｑ７ノアが酔っ払い、それを見たハムとカナンが罰せられたのはどうしてだろう？

ハ：やっぱりムラムラしたのですかね？

け：「見る」っていうことは性的ニュアンスを含んでおり、そういうことをしたのだから罰せられたのではないか。

Ｑ８、じゃあ、罰せられるにしてもカナンが含まれているのはなぜ？

五：カナンって生まれてるのかなん

一同：・・・失笑。

S：末の息子＝ヤフェトではなく、カナンのことを指している

Ｑ９、前回までとこの章とで、繰り返されていることがある。それはなにか？

またそれはなにを伝えたいのか？人間がある行為を繰り返しているがそれはなにか？

T：人間が世界の支配者であることを意識

S：過ちを繰り返している

山本先生：

ヒッピーの文化：ラブ&ピース：平和な時代の反動として平和と愛に生きるスタイル

性の解放⇒人間の解放。人間は退廃した存在なのだからそれでいいじゃない。

ああ

ヒッピーの主張もある程度理解できるが、彼らの主張がすべてではないのではないか。